

温州ミカンのマルチ栽培における被覆時の秋肥施用による樹勢維持効果

[要約] 秋肥の施用が遅れる傾向にある温州ミカンのマルチ栽培において、マルチ被覆時に秋肥施用量の 1/2量を施肥することにより、果実品質には影響がなく、翌年の着花量、新しょう量のバランスが良好になり、樹勢を維持する効果がある。

長崎県果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	果 樹 類	分類	指導
----------------	----	------	----	-------	----	----

平成6年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

マルチ栽培を続けると樹勢が低下し、収量が減少することが問題となっている。そこで、マルチ被覆時の秋肥の施用法を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ①被覆時に土壌水分が多い状態で施肥を行うと、浮皮果が多くなる傾向がみられるが、施肥による大きな影響はみられない。
- ②被覆時に秋肥施用量の 1/2量を施肥しても果実品質にほとんど影響しないが、全量を施肥すると、浮皮や着色などの果実品質が低下する。
- ③ 1/2量を被覆時に施肥すると着花量・新しょう量のバランスが良好となる。

[成果の活用面・留意点]

- ①マルチ被覆時に秋肥施用量の全量施肥は、条件（年次）により果実品質を低下させる危険があるので、秋肥施用量の 1/2量を限度とする。
- ②マルチ被覆時に土壌水分が多いと浮皮果が多くなる。

[具体的データ]

表1 マルチ被覆時の施肥と果実品質

(調査年)	処理区	1果重 (g)	糖度	酸含量 (g/100ml)	浮皮 ^z 指数	果皮色 ^y
(1992)	慣行マルチ	128	11.6	0.87	1.1	7.2
林温州	1/2量施肥マルチ	128	12.3	0.89	3.9	7.1
	全量施肥マルチ	129	12.4	0.91	1.7	7.4
	灌水・1/2施肥マルチ	130	12.3	0.96	6.9	7.1
	灌水マルチ	130	12.3	0.93	11.1	7.3
(1994)	慣行マルチ	113	12.4	1.13	0	5.4
宮川早生	1/2量施肥マルチ	84	12.9	1.14	0	5.5
	全量施肥マルチ	94	12.1	1.09	0	5.1
	慣行マルチ	97	12.0	1.06	72	6.5
林温州	1/2量施肥マルチ	99	12.1	1.07	62	7.1
	全量施肥マルチ	75	11.6	0.94	90	7.0

^z 果樹試作成「カンキツの調査法」による

^y 果樹試作成カラーチャート値の平均値

表2 マルチ被覆時の施肥と翌年の着花量・新しょう量 (1995.5)

系 統	処 理 区	着花量 ^z	新しょう量 ^z
宮川早生	慣行マルチ	4.0	2.5
	1/2量施肥マルチ	3.0	3.0
	全量施肥マルチ	2.5	4.0
林温州	慣行マルチ	3.5	3.5
	1/2量施肥マルチ	3.5	3.0
	全量施肥マルチ	3.0	3.5

^z 着花量、新しょう量は5段階評価 (1(少)~5(多))で行った。

[その他]

研究課題名：人工制御環境下における肥培管理法の確立

予算区分：指定試験

研究期間：平成5年度(昭和62~)

研究担当者：富永重敏

既発表論文等：平成2~6年度 果樹試験場業務報告

残された問題点：年次による違いを明らかにするために、継続して調査する。